

2012年（平成24年）8月10日（金）13:30～15:30

分類	概要	意見
子どもたちに期待する姿	知識を活用できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学では、バケツに水を入れていくように、頭の中に知識を入れていく学生がたくさんいる。その知識をどのように活用していくかが大切である。</li> <li>社会に貢献していく心を大学で育てていく必要があるが、小中学校でも、魅力的に育てなければと思う。</li> </ul>
	自分たちの学校を誇りに思える	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前勤務した学校では、子どもたちが自分たちの学校を誇りに思っていないかった。児童会の活動をするときも自分のことしか考えず、まとまる、協力することがなかった。そこで、自分の学校を誇れる状態をつくるために、いろいろな行事等で目標を持たせたり、児童会選挙でスローガンを立てさせたりした。その結果、「自分たちの学校を良くしていきたい」「みんなが高まるために自分はこうする」「しっかり学ぶ」「自分たちを評価できる」という子どもたちが増えた。そして、自分たちの学校を誇りに思えるようになった。大切なのはそういうところにあると思う。</li> <li>「ようこそ先輩」という取組みを行っている。亡くなられた小惑星探査機「はやブサ」の軌道を考えた木村雅文さんの上司の方や、ソフトバンクホークスの打撃コーチをされている藤井康雄さんに講演をしていただいた。生徒はすごく喜んだ。「こんな先輩がいるんだ」と思うことで、自分の学校に対する誇りを持って欲しいと考えている。</li> </ul>
	福山を誇りに思える 福山の良さを発信できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元出身の著名人に出会うことで、子どもたちは福山を誇りに思えるようになり、自信や目標を持つようになる。</li> <li>「福山の良さ」を発信できるような人を育てていく必要がある。</li> </ul>
	自己実現力・自己効力感を持つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>福山の小学生には、「将来の夢や目標をもっています」の項目について、「まったくあてはまらない」という回答が0%になって欲しい。</li> </ul>
	4つのC 「コミュニケーション」 「コラボレーション」 「クリエイション」 「チョイス、チュージング」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コミュニケーション（人間関係）」「コラボレーション（協働）」というCが大切である。そして、オンリーワンとかナンバーワンとかに見られるように、福山は広島の中でも物づくりのまちだから、「クリエイション（創造）」のC、この3つのCを大事にしたい。とりわけ福山の子どもたちは、新しいものをつくり出していく、地域のコミュニティをつくり出していくことが大切なのではないか。そして、もう1つCを加えたい。「チョイス、チュージング（選択、選んでいく）」である。阿部正弘は、「開国か攘夷か」という場面に迫られたとき、どちらかを選ぶという決断をした。こういった力が求められていくのではないか。</li> <li>動物園の動物は、食べ物を与えられて苦労しないのに自然界の動物と比べて長生きしない。選ばなくても良い生活は逆にストレスになるからである。福山の子どもたちには、時代を切り開いていく、変化の激しい社会をたくましく生きていくのだから、どこかで自分の将来設計をしながら決断していく、選んでいく、チョイスしていきける力を身に付けて欲しい。</li> <li>最近はいじめ問題などもあり、人の話をしっかり聞いて、それに答える等のコミュニケーション能力の育成が大切である。ハンディキャップのある人にも配慮しながら、育てていく環境づくり。それが、お互いを思いやる素晴らしい人になることにつながる。</li> <li>挨拶はコミュニケーションの始まり。出会ったときに、面と向かって頭を下げ、それに声を添えて、最後には、追いかけて行ってこっちに向けて「こんにちは」と言う学校がある。立ち止まって直立で挨拶をする学校もある。</li> </ul>
	規範意識を持つ 挨拶ができる お互いを思いやる 社会に貢献する 世のため、人のために尽くす 感謝の気持ちを持つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>「福山の子どもはルールを守れる」という規範意識を持ってほしい。そのルールを子どもたちが自分でつくることができれば素晴らしい。</li> <li>挨拶、掃除、時間を守る等は、分かりやすい規範意識である。</li> <li>家の前を通る小学生や中学生に挨拶をしたら、3人に1人は挨拶を返してくれる。何回もしていたら、みんな返してくれるようになるし、よく知った近所の子は自分から挨拶をするようになった。</li> <li>挨拶はコミュニケーションの始まり。出会ったときに、面と向かって頭を下げ、それに声を添えて、最後には、追いかけて行ってこっちに向けて「こんにちは」と言う学校がある。立ち止まって直立で挨拶をする学校もある。（再掲）</li> <li>最近はいじめ問題などもあり、人の話をしっかり聞いて、それに答える等のコミュニケーション能力の育成が大切である。ハンディキャップのある人も配慮しながら、育てていく環境づくり。それが、お互いを思いやる素晴らしい人になることにつながる。（再掲）</li> <li>東日本の復興のために、すごく貢献している生徒がいる。</li> <li>世のため、人のため、ありがとうございますという感謝の気持ち、これが大事である。</li> </ul>

	地域をつくるリーダー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域をつくったり、場づくりができたりする人材を育てる必要がある。</li> <li>・地域の良さを伸ばすだけでなく、地域をつくっていく人材、地域リーダーを育てていくことも大切である。</li> </ul>	
子どもたちに伝えたい福山の誇り	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福山は温暖で非常に生活しやすい住環境にある。</li> <li>・人口が多く、工業が盛んな町。気候は温暖で、瀬戸内にあって恵まれていて、台風の影響は少ないし、雪もあまり降らない。すごく穏やかなところ。</li> <li>・福山を紹介するとき、ばらのある町、「ばらと教育のまち」と言っている。</li> </ul>	
	歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福山は瀬戸内海のへそにあたる。潮の流れの関係で、下関から大阪までの航行では、満ち潮にのって下関からやってきて、鞆の港で潮待ちをし、引き潮にのって大阪まで行く。昔から重要視されてきたという歴史がある。福山は、瀬戸内海の中心の地にある。そんな話をすることで「福山を誇れる」または「福山に生まれてよかった」と思うような状況をつくることになる。それが、自分を高めていきたいとか、頑張っていきたいということにつながる。</li> <li>・PTAの全国大会で福山を紹介した。大河ドラマ「龍馬伝」で「いろは丸事件」のとき、龍馬が入港した地であると言った。</li> <li>・福山の開祖は水野勝成である。こんなことを誰も教えない。今住んでいる家、地域、すべて先人たちが汗してつくった財産。そういった足元に目を向ける必要がある。</li> </ul>	
	人材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ようこそ先輩」という取組みを行っている。亡くなられた小惑星探査機「はやブサ」の軌道を考えた木村雅文さんの上司の方や、ソフトバンクホークスの打撃コーチをされている藤井康雄さんに講演をしていただいた。(再掲)</li> <li>・福山の中だけでなく世界中で活躍されている人を紹介しようということで、リーデンローズを設計された、世界的な建築家の豊田泰久さんにご講演をいただいた。</li> <li>・この地域は、中小企業の寄り集まりである。芦田の富田久三郎の備後絆など、これがもともと備後の繊維の基礎が始まった。また、畳表にしても従来は日本を制覇していた。これらは、日本文化の基礎をつくっている。</li> </ul>	
	福山の中小企業、地場産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「福山は何もない」ではない。「何もかもある」。観光もあれば工業、農業、繊維業もある。</li> <li>・福山の中小企業には素晴らしいところがある(オンリーワン、ナンバーワン)。そういったものを教育の中に取り入れていくことで、子どもたちが自信を持つことになるのではないかと。</li> <li>・この地域は、中小企業の寄り集まりである。芦田の富田久三郎の備後絆など、これがもともと備後の繊維の基礎が始まった。また、畳表にしても従来は日本を制覇していた。これらは、日本文化の基礎をつくっている。(再掲)</li> </ul>	
	伝統芸能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども会活動で、「子ども文化祭」という取組みを今年で54回行っている。福山の無形文化財、鞆の鯛網とか高島のはね踊りとか、各地域の伝統芸能を継承していくために、やり方を地域の方に教わり、発表をしている。地域とのつながりから郷土愛というものが生まれてくる。</li> </ul>	
	協働のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の自治会連合会の中でも、「協働のまちづくり」が目に見えるというのは、誇っている。自分たちの町は、自分たちでつくっていく。自分たちの地域の子どもは、地域で育てていくという考えで、子どもたちの集えるような場所づくりをしてきた。全国のモデルに成り得る。</li> </ul>	
福山市の小中一貫教育に望むこと	ふるさと学習	福山が教室 福山の教材が教科書 福山の人々が先生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育の中に、地元を愛する「ふるさと学習」のようなものを取り入れて欲しい。地元を愛する心を育てることで、子どもたちが自信を持てるようになるのではないかと。</li> <li>・「ふるさと意識」「ふるさと心」を持つということは、もう一つの学力であり、将来生きていく学力だと思う。</li> <li>・福山は、まち自体が教材かもしれない。「福山が教室、福山の教材が教科書、福山の人々が先生」である。</li> <li>・住宅団地の中にある中学校区でも、そこで生まれ育った子どもたちには、その地はふるさと。地域の偉人の存在を聞く中で、自分の周りにある地域、中学校区に誇りを持ってもらいたい。</li> <li>・地域の郷土史家が、立派な冊子を子どもたちと一緒につくっている。地域コミュニティが強く残っている。</li> <li>・校歌に出てくる山が、どの山なのか地元の方でも分からなくなっていた。退職された先生が、その山の位置をはっきりさせて、ボランティアの人たちを巻き込み、子どもたちが登れるようにした。今では、卒業するまでに一度は、学校行事等で登ることになっている。また、動物園を拠点としてみんなが集まれるきれいな場所をつくらうと、花壇を製作する「花いっぱい運動」を行っている。</li> <li>・ある小学校は団地の中にあり、祭りがなかった。祭りもない中でどうやって地域学習を進めていったらよいかと問われたので、地域コミュニティ、自分たちで祭りをつくる、自分たちで地域をつくる学習を行ってはどうかと言ったことがある。</li> <li>・小学校3年生で、社会科や総合的な学習の時間に地域学習を行っている。「くわい」を教材にして、食育につなげている学校がある。</li> <li>・地元を愛する心を育むということ、いかにして9年間のカリキュラムに落とし込んでいくかということになる。ふるさと意識を育てていくようなカリキュラムを小学校段階から中学校出口までで作成していく。これを、例えば総合的な学習の時間などを使いながらやってみる。福山でも結構やっている。「備後がすり」をテーマにやっているところもある。系統性を持って位置付ければ「ふるさと意識」につながる。そこには地域の大人の協力が必要である。</li> <li>・福山には、1つ1つのトピック的なものはあるが、集大成できてない。専門家が作った教材ではなくて、そのトピック的なものを子どもたちが発掘していく、ふるさとを発掘していくというのがいいのではないかと。</li> <li>・「こんなまちにしていきたい」「まちのよいところを知りたい」というのは大事なのではないかと。そうすることで地域と学校がつながり、地域の方が先生</li> </ul>

		<p>にもなれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都の小中一貫教育で、子どもたちは未来の町衆だから、町衆がもう一人の先生になったらどうかと言ったことがある。西陣織の町衆が放課後、子どもたちの先生になった。福山でもできるのではないか。</li> <li>・以前、ある高校で「福山学」「備後学」を根付かせたいと言っていた。「学」になるもの、地域の素材が福山にはたくさんある。</li> <li>・福山の地域素材には、子どもたちに伝えきれていないものや伝えていないものがある。そのような素材を集め、高めていくこと「福山学」というようなものになるのではないか。</li> <li>・「ふくやま知つとる検定」は、福山市のことを知ってもらうために始めた。小中学生も個人で参加している。学校単位で参加したところもある。地元のことを知ってもらうために、もっと学校単位で参加してみようか。</li> <li>・大人が地元に戻らないという状況がある。まず大人が「福山を愛する」という気持ちを持ち、その気持ちを子どもたちに伝えていくことが大切である。</li> </ul>
	<p>基礎体力づくり 世の中に出たときに生きて働く力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風邪をひいたから薬を与える。同じように「学力のここに課題があるから、このように指導する」ということは、全国どこでもやっていることであり、学力課題には一定の効果はある。しかし、風邪をひかない体質をつくることにはならない。小中一貫教育は、風邪をひいているから薬を飲ませるという取組みだけでなく、風邪をひかないような基礎体力がある体をつくっていくという取組みだと思う。</li> <li>・「ふるさとの意識」「ふるさとの良さを伝えていく」「ふるさとの中で自分の目標とか夢を見つけさせていく」「ふるさとの中でコミュニケーション力を育てていく」、これらは学力とは直接はつながらないが、気がついたときに、基礎体力が付いて、風邪をひかなくなったという取組みではないかと思う。</li> <li>・学習意欲は、大事な基礎体力づくりであり、大人になって世の中に出たときに生きて働く力である。</li> <li>・「ふるさと意識」「ふるさと心」を持つということは、もう一つの学力であり、将来生きていく学力だと思う。(再掲)</li> </ul>
	<p>福山の子どもは〇〇ができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長が全国大会等に行った時、「福山の子どもはこれができる」「福山の子どもはよさはこれです」と言えるようなものを目指していくことが小中一貫教育だと思う。「福山の子どもはこれできて欲しい」というものを出してみようか。</li> <li>・「福山の子どもはルールを守る」という規範意識を持ってほしい。そのルールを子どもたちが自分でつくることができれば素晴らしい。(再掲)</li> <li>・福山の子どもたちには、時代を切り開いていく、変化の激しい社会をたくましく生きていくのだから、どこかで自分の将来設計をしながら決断していける、選んでいける、チョイスしていける力を身に付けて欲しい。(再掲)</li> </ul>